

男女共同参画教育事業

東 分 館

男女共同参画講座	コミュニケーション力アップ講座 ー雑談力とアサーションを学ぶー
----------	------------------------------------

目 的 小金井市では男女共同参画社会の実現のため、計画期間を令和3年度から7年度までとした、第6次男女共同参画行動計画が策定されました。その中の基本目標Ⅱにおいて「男女がともに、家庭生活、仕事、地域活動等、あらゆる分野に参画し、一人ひとりがその能力を十分に発揮し、自分らしい生き方に対して主体的な選択を可能とする」ことの重要性が示されており、男女共同参画社会の構築には、コミュニケーション能力の習得が不可欠です。より良い人間関係づくりのポイントを学習することを通して、男女共同参画社会の実現への関心を高めることを目的とします。

日程・内容・講師

回	日 程	内 容	講 師
1	9/13	ロジカルシンキング～伝えたいことは何？～	西部 直樹さん (元東京大学非常勤講師)
2	10/11	雑談力と傾聴技術～心地良い関係づくりは、何気ない会話から生まれる？～	
3	11/22	アサーション～自分も相手も大切に自己表現、 アイメッセージとは？～	

※いずれも火曜日、午前10時から正午まで

場 所 公民館東分館 集会室A・B

保 育 あり（延べ保育人数 9人）

募集方法 市報8月15日号、月刊こうみんかん8月号、チラシ、ポスター、市HP、東センターHP、東分館ツイッター
申込順、電話または直接

対 象 市内在住・在勤・在学の方

人 数 募集 24人 応募 21人
受講 21人（男性2人、女性19人）
延べ参加者 49人

担当企画実行委員 宮國 愛里、矢部 響子

担当職員 倉本 恵子

担当職員感想 理論と実践を交えながらワークショップ形式で開催し、受講生の方々が活発に意見交換を行う姿が非常に印象的でした。自身も相手も大切にするコミュニケーションスキルを学ぶ講座となりました。

参加者感想 ○ネットで自由に発信が出来、寛容さが失われがちな昨今にあって、日常のやり取りの中でアサーティブネスを学ぶことは大変重要なことだと改めて認識しました。

貫井北分館

男女共同参画事業	きたまち保育サポーター制度
----------	---------------

目 的 子育て中の保護者やお子さんの子ども・子育て支援講座や男女共同講座などの保育を通じた生涯学習支援、および子育てに興味がある方や、子育てが終わった方の生涯学習、また保育サポーター同士の交流をととした地域のコミュニティづくり。

日 程 令和4年4月21日（木）から令和5年2月25日（土）まで

内 容 保育室の設営、保育の実施、「保育の記録」の作成、おもちゃの管理

講座名・きたまち保育サポーター数・保育したお子さんの人数

場 所	講座名	回数	保育サポーター(延数)	保育したお子さん(人)		
				参加(延数)	男子(延数)	女子(延数)
貫井北分館	子ども・子育て支援「自分も家族も大切にするコミュニケーション」	4	12	1	0	1
	子ども・子育て支援「パパと一緒に組み立てよう」	1	2	1	0	1
	男女共同参画講座「コロナ禍を経験して考える人と地域がつながる共生社会」*	6				
	人権講座「災厄をしなやかに生きる」*	2				
	陶芸入門講座	7	14	11	11	0
	市民講座「エネルギーと私たちの生活」	4	8	3	1	2
東分館	親子工作教室「よく当たるゴムてっぽうを作ろう」	1	3	2	1	1
	子ども子育て支援講座「簡単・かわいい！ハロウィンラッピングワークショップ」	1	3	1	0	1
	男女共同参画講座「コミュニケーション力アップ講座」	3	12	12	9	3
	子育て世代のためのつるし飾り入門	3	9	11	5	6
本館	気象災害ってナニ？*	2				
	子どもの人権講座2022	2	6	8	3	5
	家事効率化のための片づけ講座	1	2	5	2	3
緑分館	子ども体験講座「よく飛ぶ紙ひこうきの作り方、飛ばし方」	1	2	1	1	0
	子ども体験講座「プロマジシャンが教える親子で楽しむマジック教室」	2	4	3	1	2
	市民がつくる自主講座「水源の森の木で、DIYしませんか？」	1	2	2	1	1

*:募集したが保育希望者なし

対 象 者 おおむね2歳以上のお子さん

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 感染症対策のため保育の募集人数状況によって減らすなど感染症対策を実施。保護者からは2歳未満の保育の希望もあり、第5期のきたまち保育サポーター養成講座で学びを深め、対応ができるように検討。

貫井北分館

男女共同参画講座	コロナ禍を経験して考える 人と地域がつながる共生社会
----------	-------------------------------

目 的 人権や障がいを自分事として身近に感じられる学びを通し、人権が尊重され、多様性を認め合う共生社会について学び合う。

日程・内容・講師

回	日程	内 容	講 師
1	5/14	青年当事者の A さんと共に考える 発達障害の理解と支援	高橋 智さん（日本大学教授）ほか
2	5/28	視覚障害を知る「それぞれのロービジョン（弱視）」	大平 英一郎さん（ロービジョンフットサルクラブ CA. SOLUA 代表）
3	6/11	社会的養護を知る「自立を余儀なくされる子どもたち	高橋 亜美さん（アフターケア相談所ゆずりは所長）
4	6/25	L G B T Q を生きる「自分を説明できる言葉が、なかったんです。」	中山 貴将さん（元 N P O 法人性同一性障害支援機構 理事長）
5	7/9	聴覚障害を知る「お笑い手話落語」	大喰亭満腹さん（落語家）
6	7/23	「人と地域がつながる共生社会」のためにできること	高橋 智さん（日本大学教授）ほか

※いずれも土曜日、午前 10 時から正午まで

場 所 公民館貫井北分館 学習室 C・D、学習室 A・B

募集方法 市報 4 月 15 日号、チラシ、ポスター、市 H P、貫井北センター H P、貫井北分館ツイッター、申込順 電話、メールまたは直接

対 象 市内在住・在勤・在学の方

人 数 募集 16 人 応募 36 人 受講 33 人（男性 9 人、女性 24 人）
延べ参加者 63 人（一回だけの参加も可）

担当企画実行委員 森 千尋

担当職員 伊藤 智代子

担当職員感想 聴覚障がいの方は要点筆記者同席で 2 回受講。障がいの有無にかかわらず、どなたでも参加できる合理的配慮の必要性を感じました。「共生社会は、人の温かさを感じ、楽しく一緒に寄り添ってくれる伴走型支援で」に受講者が深く頷く様子が印象的でした。

参加者感想 ○支援をする人が良かれと思った行為が、支援させる側が違うとずれていると感じてしまう「パターンリズム」の言葉がとても印象に残りました。
○ななめの大人の一人になれるよう目指したい。そのための知識、ありがとうございました。続けて学んでゆきたいです。
○お笑い手話落語は、とても楽しかったです。